

学外発表学術論文及び国際会議発表論文，著者一覧表（vol. B）

太字は学内者を示す  
(the boldface indicates  
the member of the  
Okayama Univ. Sci.)

学術論文

文学 (Literature)

難波三郎：太平洋多島海の人びと（三），太平洋学会誌 第40号（第11巻第3号），  
pp59-69（1988）.

難波三郎：太平洋多島海の人びと（四），太平洋学会誌 第41号（第11巻第4号），  
pp131-136（1989）.

難波三郎：太平洋多島海の人びと（五），太平洋学会誌 第42号（第12巻第1号），  
pp63-67（1989）.

難波三郎：太平洋多島海の人びと（六），太平洋学会誌 第43号（第12巻第2号），  
pp17-23（1989）.

高池久隆：ハインリヒ・ハイネの『告白』—詩人としての自己規定の試み—，大阪大学  
「独文学報」4，19-35（1988）.

塩飽直紀：米国における煤煙取引政策及びわが国における総量規制政策について，広島経  
済大学経済研究論集 11，157-173（1988）.

塩飽直紀：公害対策費用の低減をめざして—米国の煤煙取引政策にまなぶ，実践経営  
18，152-158（1988）.

著書 (Books) 及び解説 (Reviews)

金子・河野・馬場編著・（第1章）村島義彦（第4章） 小山悦司・河野昌晴（第7章）

曾我雅比児：現代教育の理論と課題，小林出版 川崎市（1989）

## 岡山理科大学紀要投稿規定

### （投稿資格者）

第1条 岡山理科大学（以下「本大学」という）紀要への投稿有資格者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本大学の常勤の教員，職員。
- (2) 本大学院博士課程に在籍中の学生，又は在籍したことのある者。
- (3) 本大学院修士課程，及び本大学研究員として在籍中，又は在籍したことのある者。

### （投稿内容）

第2条 投稿内容は次のとおりとする。

- (1) 他誌に未掲載の学術論文（以下「原論文」という）。
- (2) 博士論文要旨。
- (3) 学外発表論文題目の一覧。
- (4) 本大学教職員が中心となって開催した全国的，又は国際的規模の学術研究会要項一覧。但し，全国的規模の学術研究会とは，学会の中四国支部会程度以上のものが開催，後援，協賛などを行うものを意味する。

### （著者等）

第3条 原論文の投稿は，代表著者（筆頭著者）1人につき，原則として年1編とする。

共著の場合，代表者は有資格者とし，他に無資格者を含んでもよい。但し著者の身分を明記する。修士課程に在籍中の学生，または在籍したことのある者，および研究員は指導教員との連名のもとで，筆頭著者となることができる。

### （発刊）

第4条 紀要の発刊は，原則として年1回とし，A自然科学，B人文・社会科学の2分冊とする。

### （投稿申込）

第5条 原論文を投稿しようとする者は，論文題目と掲載を希望するA・B分冊のいずれかを指定して，7月末日までに紀要委員会に申し込むものとする。

2. 前項の申し込み者は，原稿締切日9月30日までに原稿を紀要委員会に提出する。

### （論文の受理）

第6条 紀要委員会は，投稿された論文についての採否を決定し，その日をもって受理日とする。

### （原稿の作成）

第7条 原稿の作成上留意事項は，次のとおりとする。

- (1) 原稿のスタイルは「紀要原稿作成要領」に従う。

- (2) 提出論文は、原則として英語、独語、仏語などの主要外国語のいずれかによる表題、著者名の主要外国語のいずれかによる表題、著者名および150字以内の摘要をつける。但し、外国語で書かれたものは、その必要はない。
- (3) 掲載論文は原則として、1編刷り上り10ページ以内とする。
- (4) 原稿は原則として、所定の用紙に清書する。  
但し、欧主原稿の場合は、タイプライター又はワードプロセッサを使用する。
- (5) 原稿はコピーでなく、原文とする。

(校 正)

第8条 校正は速やかに行うこととし、内容および図などの変更、追加は原則として認めない。

- 2. 印刷業者との連絡を必要とする場合は、紀要委員会を通じて行うものとする。

(刷り上がり)

第9条 別刷りは、論文ごとに30部を無料配布とし、増冊分の費用は、申し込み者負担とする。

- 2. 希望増冊部数は、紀要委員会に申し込むものとする。

(昭和63年7月 教授会承認)

### 紀要委員会委員

| 職 名   | 氏 名     | 所 属         |
|-------|---------|-------------|
| 委 員 長 | 若 村 国 夫 | 基礎理学科       |
| 副委員長  | 太田垣博一   | 電子理学科，電子工学科 |
| ”     | 桐 榮 恭 二 | 教養部，自然系     |
| 委 員   | 吉 田 憲 一 | 応用数学科       |
| ”     | 重 富 康 正 | 大学院化学科      |
| ”     | 中 川 幸 子 | 応用物理学科      |
| ”     | 加 藤 次 郎 | 生物化学科       |
| ”     | 竹 田 邦 雄 | 応用化学科       |
| ”     | 助 台 栄 一 | 機械理学科，機械工学科 |
| ”     | 塩 飽 直 紀 | 教養部，人文・社会系  |
| ”     | 高 池 久 隆 | 教養部，保体・語学系  |
| ”     | 濱 田 穰   | 教職・学芸員課程    |

### 岡山理科大学紀要 B（人文・社会科学）

平成元年10月10日編集

平成2年3月1日印刷

平成2年3月20日発行

発 行 者 加 計 勉  
岡山理科大学紀要委員会  
（代表者 若村 国夫）

発 行 所 岡 山 理 科 大 学  
〒700 岡山市理大町1-1  
電 話 0862-52-3161(代)

印 刷 所 株式会社  
中四国印刷センター  
〒701-01 倉敷市下庄148番地  
電 話 0864-62-8877(代)